

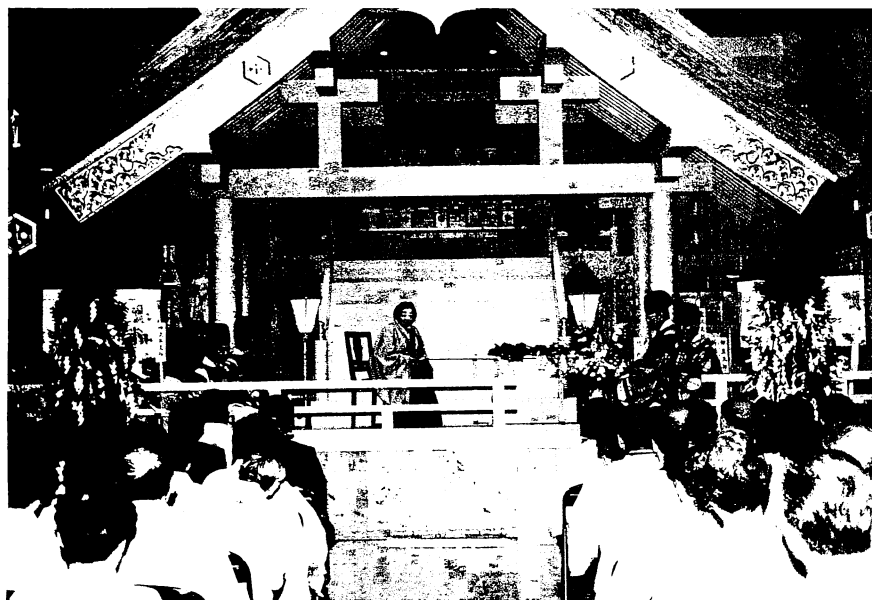


第 3 7 2 号

昭和44年6月1日創刊
平成17年5月8日発行
発行所及責任者
川崎市多摩区東生田4-13-17
電話番号 044-976-0708
郵便番号 214-0031
宗兼 出雲心友教会 彦
教法 佐藤 武
編集 毎月8日1回発行
1部150円 (送料共)
年間購読料1,800円

神語について

一般の方々は、仏語は色々知っていても、幸魂奇魂守給幸給」という神語を知らないと、残念ながら多数いらつしやるのが現状です。



大祭の風景

しかし、最近になってようやく、大きな神社では、神語が書かれた札が目につくようになりました。信者の皆様は、もちろん神語を機会あるごとに唱えているので良くご存知だと思いますが、どうい意味ですか？と聞かれて答えられない方は、案外少ないのではないのでしょうか。

そこで、今回は、基本的な「幸魂奇魂守給幸給」という神語についてお話することにします。

幸魂（さきみたま）とは人を幸福にならしめる活動のみたまです。

奇魂（くしみたま）とは目に見えない不思議な力を発揮するみたま、また、ものごとをくしわけて、正しい信念を持つみたまです。

神語に出てくる、魂には、このような意味があり、大國主大神の真の神たらしめた魂そのものです。

人間には、「四魂」と言つて、幸魂、奇魂の他に、和魂（にぎみたま）と荒魂（あらみたま）という魂があります。

わかりやすく言いかえますと、人生には目に見える世界だけでなく、目に見えない世界の真理のあることを、大國主大神は、御自分の体験をとおして私たちに教えられたのです。

その御自分の体験というのは、古事記にも記されていますが、国造りに懸命になつて、荒ぶれる国を平定していらした頃、大國主大神の最大の協力者でいらつしゃつた、少彦名神（すくなひこなのかみ）が海を渡つてかくれ給いし時に大変力を落とされて、

「これから先、私は一人でどうやって国を治めてゆくべきか」

と、なげかけた時、海の向こうから、波が輝き、

「今まで、荒ぶれた賊を平らげ、平和を築いてくれたのは、汝の力だけではない。私がお前のうちにいたからこそ、国造りがなしとげ得たのだ」

と、聞こえました。大國主大神様は、「その様なことを言われるあなたは、一体どなたですか」と、問われると、その神光は、「私は、お前の幸魂、奇魂である」

と、答えました。そこで大國主大神は、自分自身のうかつさに気付かれて、その幸魂、奇魂を、大和の三輪山に鎮められたと古事記に書かれておりました。

私たちも、幸魂、奇魂を当然持つて居るのです。毎日、朝夕のおまじりは自分と神とが、一対一で、魂の交流が出来る場でもあります。

「氣」を入れておまじりをする事によって、言いかえれば大國主大神の御魂を通して、自分の中にある幸魂、奇魂を最大限に生かして、毎日の生活が出来る様に、努力してゆきましょう。

さて、今月の二十九日(日)には、最も大きな御祭である大祭がございます。

この大祭では、正面の御扉が開き、大國主大神様の御神像が拝見出来る数少ない日でもあります。(年五日のうちの一日) また、この日は、日頃の大神様に対する感謝の気持ちを形にあらわす機会でもあります。

万障お繰り合わせの上、是非おまじり下さい。大國主大神様は、言うまでもなく私たちを見守り、そして御守護して下さいっております。

人間は、自分の力だけで生きて居るではありません。大神様によつて生かされて居るのです。どうか皆様も、この事を再認識致しましょう。

春季例大祭式次第

- 浦安の舞
- 参進
- 修祓
- 開扉
- 総拝
- 献饌
- 謝恩詞
- 祝詞
- 出雲の巫女舞
- 玉串拝礼
- 総拝
- 斎主挨拶
- 退下